

おあしす

沙漠とマングローブの島、ムシャ島（ジブチ共和国）



ムシャ島はタジュラ湾に浮かぶ。



上空からの様子（Google Earth）。



東側沖合から島を望む。



美しい海と白い砂浜。



マングローブの群落。 *Rhizophora mucronata* や *Avicennia marina* など。



標高数メートル程度の高台は、サンゴや貝類からなる石灰岩が土壌化した沙漠が広がる。

（写真提供：鈴木伸治・浅倉康裕）

日本沙漠学会の学会誌「沙漠研究」は Vol. 25 (2015) から J-STAGE にてオンライン版で公開されています。

日本語版：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jals/-char/ja/>

英語版：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jals>

日本沙漠学会 第35回学術大会のお知らせ（第二報）

1. 大会予定概要

【日時】2024年5月11-12日（土-日）

【会場】文教大学東京あだち校舎（学術大会／公開シンポジウム）

<https://www.bunkyo.ac.jp/access/adachi/>

【スケジュール概要】

5月11日（土） 一般発表、ポスター発表ショートプレゼンテーション
ポスターセッションコアタイム
総会 ※総会はハイブリッド形式で実施いたします。
公開シンポジウム「世界遺産と持続可能な観光を考える（仮）」
懇親会

5月12日（日） 一般発表

2. 研究発表申し込み

【発表申込 Web ページ】

<https://forms.gle/K25S6pMnQCvSTBC28>

発表申し込み締め切り：2024年2月29日（木）3月15日まで口頭発表のみ受付延長

要旨締め切り：2024年3月30日（土）

【口頭発表】オンサイト会場での口頭発表

【ポスター発表】オンサイト会場でのポスター掲示とショートプレゼンテーション（5分）

発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとなります。

3. 参加申し込み／総会出欠確認

【参加申込／総会出欠確認 Web ページ】

<https://forms.gle/SAjP3SXSmf7ZwVvx6>

参加申し込み締め切り：2024年4月30日（火）

正会員および名誉会員は、参加や発表の有無にかかわらず、上記 URL より必ず出欠確認を行ってください。発表者も全員、参加申し込みが必要です。

4. 参加費（予定）

【大会参加費】一般 4,000 円，学生 2,000 円（支払方法は追ってご連絡いたします）

【懇親会費】一般 6,000 円，学生 3,000 円

【要旨印刷・製本費用】1,000 円 ※要旨集は PDF にて無料配布する予定です。

ただし紙媒体を希望する場合には、印刷・製本費用として1,000円を申し受けます。

5. 事務局

第35回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

〒121-0061 東京都足立区花畑5丁目6-1

文教大学国際学部・准教授・渡邊三津子 [委員長]

E-mail: jaals2024@gmail.com

Phone: 03-5686-8577（代表）

詳細はホームページ <https://www.jaals.net/> をご覧ください。

2023 年度学会賞受賞候補者推薦のお願い

日本沙漠学会正会員 各位

日本沙漠学会会長 森尾貴広
学会賞審査委員会委員長 的場泰信

日本沙漠学会細則第 34 条にもとづき、日本沙漠学会賞（学会賞，学術論文賞，進歩賞，奨励賞の 4 賞）を公募いたします。つきましては、学会賞受賞候補者を下記の要領でご推薦下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 学会賞の種類

- (1) 日本沙漠学会学会賞 : 本学会において学術かつ事業活動に顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞 : 「沙漠研究」に掲載された論文により乾燥・半乾燥地に関する学術上の顕著な業績を挙げた会員に授与する。
- (3) 日本沙漠学会進歩賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する技術的，実践的な業績を挙げた会員または会員を含む団体に授与する。
- (4) 日本沙漠学会奨励賞 : 乾燥地・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する。この場合の受賞者は，原則として当該年度において 35 歳以下の会員とする。なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する。

2. 推薦期限 **2024 年 2 月 29 日（木） 当日消印有効**

3. 推薦方法

以下の書類を期限までに学会賞審査委員会（幹事）宛に郵送して下さい。なお奨励賞のみ，推薦に加えて自薦も可としますが，その場合には，本人の業績について照会可能な 2 名以上の所属・連絡先を添付してください。

- (1) 日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞を推薦する場合
 - 様式 1 の推薦書 1 部
 - 推薦に関する資料 1 組
- (2) 日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞を推薦する場合
 - 様式 2 の推薦書 1 部
 - 推薦に関する業績 1 組

4. 宛先（照会先）

〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学文学部
日本沙漠学会 学会賞審査委員会 幹事 兎玉香菜子
E-mail: kodamaknk@faculty.chiba-u.jp

5. その他

応募された書類は返却しませんので，必要な場合は写しを保管下さい。

なお，過去の受賞者については日本沙漠学会ホームページ (<http://www.jaals.net/>) をご参照下さい。

様式 1

(日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学会賞ならびに日本沙漠学会進歩賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

様式 2

(日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞用) 令和 年 月 日

日本沙漠学会学術論文賞ならびに日本沙漠学会奨励賞推薦書

1. 推薦者 所属：
氏名： 印
住所・電話：
2. 被推薦者 所属：
氏名： 生年 年 月 日
住所・電話：
入会年：
3. 推薦業績 題目：
4. 推薦理由
5. 推薦業績に関する資料リストなど

著者名（共著の場合は全員）、題目、掲載誌名、巻号、頁、発行年を記載すること。

-----記入上の注意-----

- 1) 書 式 A4 縦置横書き，明朝体 12 ポイント，上下左右マージン 2.0cm 以上，1 行文字数 35～40 字，1 ページ
行数 35～40 行
- 2) 被推薦者 被推薦者が団体の場合は団体名およびその代表者を記入して下さい。
- 3) 推薦理由 箇条書きの場合は約 100 字以内で説明して下さい。
箇条書きでない場合は全体を 400 字程度で記載して下さい。
- 4) 様式 1 「日本沙漠学会学会賞・日本沙漠学会進歩賞」の場合 5. 資料はコピーなどを添付して下さい。
- 5) 様式 2 「日本沙漠学会学術論文賞・日本沙漠学会奨励賞」の場合 5. 業績リストは研究業績の別刷り（コピー
可）を添付して下さい。

学会賞審査委員会からのお知らせ 日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事 的場 泰信
児玉 香菜子

日本沙漠学会では「奨励賞」「ベストポスター賞」など、若手研究者のみなさんを対象とした賞を設けています。

奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。
※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後3年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に書くことができるので、就職活動にも役立ちます。

日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ
沙漠研究に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員／E-mail：jaals@kyouritsu-online.co.jp

日本沙漠学会 令和5年度秋季シンポジウム & 沙漠工学分科会 第34回 講演会 開催報告

令和5年12月9日、沙漠工学分科会第34回講演会を、令和5年度秋季シンポジウムとして東京農業大学世田谷キャンパス国際センター榎本ホールにて開催いたしました。テーマは「熱帯沙漠の国ジブチの環境・エネルギー・農牧業の研究最前線」でした。この講演会は、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）の研究課題である「ジブチにおける広域緑化ポテンシャル評価に基づいた発展的・持続可能水資源管理技術確立に関する研究」の進捗や成果を報告するものとして企画されました。対面とオンライン配信でのハイブリッドで開催されました。はじめにプロジェクトリーダーの島田沢彦 日本沙漠学会副会長（東京農業大学）から開会の挨拶があり、6名の講演者による講演が行われました。講演者と講演タイトルは以下の通りです。

GETFLOWS を用いたジブチ全土の地下水流動系の把握

寄立 徹 会員（オリエンタルコンサルタンツグローバル）

UAV 画像データを用いたジブチにおける土地被覆環境の把握

関山絢子 会員（東京農業大学）

ジブチ農業における自然エネルギーを利用したポンピングシステムの変遷と提案

田島 淳 会員（東京農業大学）

ジブチ農業における廃棄物利用の可能性

大山修一 会員（京都大学）

乾燥地での土壌改良と温暖化対策への外来種の活用に関する検討

伊藤 豊 会員（鳥根県立大学）

ジブチにおける降雨量への夜間光の反応

山本裕基 会員（関西大学）

最後に、田中 徹 日本沙漠学会副会長（SBI ファーマ）から閉会の挨拶がありました。対面 33 名、オンライン 27 名の計 60 名の参加があり、盛会に終わりました。今回の講演会では総合討論の時間は設けなかったものの、講演ごとに活発な質疑応答が行われ、さらにオンラインでジブチ国側からも発言があったほか、講演会後に設けられた懇親会の席でも議論に花が咲きました。

これらの講演の詳細な内容につきましては、小特集として学会誌「沙漠研究」に掲載される予定です。なおこの講演会は、東京農業大学沙漠に緑を育てる会および東京農業大学総合研究所研究会沙漠緑化研究部会との共催であったことを記します。

沙漠工学分科会長 田島 淳・幹事 鈴木伸治

CADAL ニュース

日本沙漠学会 乾燥地農学分科会機関紙 第 68 号

Commission of Agricultural Development for Arid Lands,
The Japanese Association for Arid Land Studies

乾燥地農学分科会講演会

「乾燥地農学の原点：日本人の考える沙漠の「ない」を活かすには？」開催報告

乾燥地農学分科会では 2023 年 11 月 24 日（金）に千葉工業大学津田沼キャンパスにおいて 2023 年度講演会をハイブリッド形式にて開催した。

沙漠を含む乾燥地・半乾燥地に対して我々はどうのイメージを持っているだろうか。全くモノがないという印象をもっていないだろうか。本分科会の目的は、「日本の農業関連技術を乾燥地・半乾燥地へ活用して、地球規模の食料増産につなげる技術の研究・開発を行いながら社会・経済を含めた地球の持続的な総合開発に貢献する」ことである。この原点に立ち返り、沙漠に「ない」モノをいかに克服するか、日本の技術の当てはめを改めて考えてみたい。沙漠に「ない」ものは様々あるだろう。その中から土・水・緑・電力を取り上げ、4 人の講師からご講演いただいた。

(1) 沙漠では、砂の移動が活発で土壌というには未成熟な堆積物の集積や、年間を通して土壌断面が乾燥しており有機物の集積が少ないなど特徴的な土に覆われている。その中で保水性・肥沃性を維持するためにも有機物の集積が重要であるが、強烈な日射によ



矢沢勇樹氏

って有機物は容易に分解されてしまう。そのような環境で土壌に炭素を貯留するためには、より分解されにくい有機物の集積が必要である。千葉工業大学工学部矢沢勇樹氏から「沙漠における万能的な反応場“腐植物質”を増産するアイデア」と題して講演いただいた。腐植物質が化学的、微生物学的に非常に高い反応性を持つことを紹介され、沙漠には「ない」腐植物質を生産するアイデアとしてアマゾンの Terra Preta や、草炭を混合発酵させた腐植質堆肥を提案された。

(2) 気候学的に沙漠は年降水量 200 mm あるいは 254

mm 以下の地域に対応するという定義がある。乾燥地や極乾燥地で沙漠が多く見られることから沙漠＝水が少ないところであることはそれほどの外してはいないだろう。水は全ての生物の源であり、限られた水資源を効率的に使うためには水の循環利用・再利用が必要である。水 ing エンジニアリング（株）ソリューション営業部神田峻氏から「下水道からの地域資源循環の構築」というタイトルでご講演いただいた。水利用再生だけではなく、下水に含まれるリンを回収し、肥料として販売するだけでなく、酒米生産を JA や地元自治体と協力して行った事例を紹介いただいた。



神田 峻氏

(3) 水資源が制限される中では、植生も貧弱になる。一方で、十分な日射量を有効に活用することができれば、限られた水資源でも効率的に食料やバイオマスの生産につながる可能性がある。微細藻類は他の植物に比べ増殖速度が速く、生物体全体を利用できること



大島義徳氏

から、近年 CO₂ の固定や有用物質の生産などで注目されている。(株)大林組技術本部未来事業創造部大島義徳氏から「微細藻の大量培養の可能性」と題して講演をいただいた。沙漠での微細藻大量培養の事例紹介に加えて、小規模スケールにおける高付加価値微細藻培養を紹介いただき、多様な視点からの微細藻培養の可能性を示された。

(4) 豊富な太陽光を利用した太陽電池の普及が急速に進んでおり本分科会でも過去に話題として取り上げた。

一方、微生物の代謝を利用した微生物燃料電池の研究も進んでおり、微少スケールでの電力供給に注目されている。植物根圏全体を対象とすることで、より大規模な植物電池が実証スケールに入っている。(株)ニソール技術顧問水野恒雄氏から「植物による新規発電システムと沙漠地への応用」と題してご講演いただいた。植物発電の概要を紹介いただき、展開事例として廃水処理や休耕田の電気柵など国内の



水野恒雄氏

オンサイト発電ばかりでなく、点滴灌漑の電力源としての利用など乾燥地での展開についても展望を示していただいた。

オンライン参加者8人を含めて44名の参加があり、質疑応答や全体討論では、活発な議論をいただいた。開会挨拶をいただいた田中徹副会長、会場の手配をしていただいた矢沢勇樹理事、オンライン会議の管理をしていただいた(株)共立齋藤哲治氏をはじめ、講演会の運営にご尽力いただいた分科会幹事諸氏ならびに参加者各位にこの場を借りてお礼申し上げます。

(文責：分科会会長 石川祐一)



講演会参加者（全体討論後、講師を囲んで）

学会記事

日本沙漠学会第 160 回理事会

日 時：2023 年 11 月 11 日（土）14:00～15:30

会 場：Web 会議

出 席：森尾貴広（会長）、島田沢彦、田中徹（以上、副会長）、高橋新平、渡邊三津子（以上、監事）、矢沢勇樹、渡邊文雄、酒井裕司、石川祐一、入江光輝、的場泰信、鈴木伸治、真田篤史（以上、理事）、安部征雄、小島紀徳、森卓（以上、顧問）、篠原卓、檜谷昂（以上、総務委員）、田島淳（以上、分科会会長）、齋藤哲治（事務局）

議 題：

I. 審議事項

1. 第 35 回学術大会（2024 年度 @ 文教大学）について

- ・渡邊大会実行委員長から 開催候補日程が示され、審議の結果 2024 年 5 月 11 日（土）-12 日（日）を第一候補することとなった。なお、第二候補は 2024 年 6 月 15 日（土）-16 日（日）となった。
- ・第 35 回学術大会は完全対面で実施する。総会は多くの会員が参加できるようにハイブリットで実施する。
- ・要旨集は電子媒体で作成する。ただし、要望があった場合のみ冊子体で要旨集を配布する。

2. 英文書籍出版検討について

- ・石川企画担当理事から 2023 年 10 月 26 日にワーキンググループ（参加者：島田副会長、矢沢理事、入江理事、共立齋藤氏）で検討した。35 周年に向けて紙媒体の出版はせず、工学系大学で卒業後も専門性をアップデートしていくための講習制度 CPD や多くの大学がオンデマンド授業提供している JV-Campus などのプラットフォームを使って、沙漠学会からオンデマンドのコンテンツを対外的に公表する。また、ある程度コンテンツが溜まってきたら、沙漠学事典のように章立てして、全体として沙漠学の講義を形成していくことが提案された。
- ・入江企画担当理事から CPD の制度やポイント制であること、学会での利用方法の提案があった。
- ・森顧問から CPD はコンサルタント業界だけでなく技術師も関係する。沙漠学会でも授業・講習を提供できれば、実務者や学生に魅力度が上がると考えるとの意見がだされた。
- ・森尾会長から JV-Campus について事業としての説明があり、沙漠学会として、リカレント教育など専門家の研修に資するコンテンツ提供ができるのであ

れば、社会に対する貢献ができ、学会の知名度向上にもつながるとの意見がだされた。

- ・入江理事から JV-Campus などのプラットフォームに動的なコンテンツを提供していくという方向性に賛成すると意見がだされた。
 - ・酒井理事から JV-Campus への機関認証をもらうには沙漠学会として参加交渉していくことになるのか質問があった。
 - ・森尾会長から 沙漠学会が JV-Campus にボックスを作るために交渉していくことになるかと回答があった。
 - ・石川理事から オンデマンド講義で資料を載せる場合、著作権処理について質問があった。
 - ・森尾会長から JV-Campus は、コンテンツを載せる側が公衆送信についての規定に対応する必要がある。各大学の学内のルールを守っていれば、問題ないはずであると説明があった。
 - ・ワーキンググループのメンバーに NTCI の森顧問にも加わるようになった。第 2 回、第 3 回のワーキンググループで具体的な検討して行くことになった。
- ##### 3. 乾燥地農学分科会への交付金
- ・石川理事から 乾燥地学会分科会の講演会を 2023 年 11 月 24 日に行うため、分科会開催のための交付金 125,000 円の申請を行うと説明があった
 - ・森尾会長から 所定の手続きに沿って交付を進めるように指示があった。
- ##### 4. 細則の改正（総会の定足数について）
- ・鈴木総務担当理事から コロナを経て総会の開催方法が変わってきた。会員数もギリギリのところをやっている。総会の定足数については学会発足時に作られたものであるため細則改正について検討してよいか提案があった。
 - ・矢沢理事から 基本的には賛成である。会員数が減っている中で、個々の意見が反映できる総会としていけるように変更していくことが望ましい。
 - ・安部顧問から 賛成であるが、今から 20 年くらい前に役員任期を 2 年から 3 年にした。そのときに総会の定足数を 1/2 から 1/3 に減らしたが、数の論理で強引に決めてしまうことがないかが問題となった。沙漠学会は理系と文系が融合している学会であるが、どちらかという文系の会員数が少ない。文系の先生達が、数の論理で押し切られないか心配しての反対であった。意志決定が複雑化してきているので、再検討する時期であると考える。
 - ・森尾会長から 会員一人一人の意志をどの様に反映

していくかが重要であると考える。

- ・審議の結果、今後総会の定足数についての細則を改定することになった。今後のスケジュールとしては、2024年5月の総会での改正を目指す。4月の評議委員会で審議することになるため、評議委員会の前に一斉メールで送る。

5. 沙漠研究の投稿料金の見直し

- ・矢沢理事から 既に沙漠研究は電子ジャーナル化して冊子体はなく、合本で発行する場合は白黒印刷している。現在の投稿規定ではカラーページにと超過ページについての投稿料の見直しが必要である。
- ・小島顧問から 料金変更手続きの手順は、まず理事会で了承して頂き、その後は編集委員会で内規を変えることになる。
- ・森尾会長から 編集と財務で検討して、編集が内規の改定案を理事会で報告するように指示があった。

II. 報告事項

1. 秋季シンポジウム進捗

- ・鈴木理事より 秋季シンポジウムの日程を12月9日（土）に変更する旨報告があった。
- ・シンポジウムでの講演資料について査読をつけて沙漠研究に原著論文として載せていくことになった。
秋季シンポジウム・沙漠工学分科会

日時：令和5年12月9日（土）13：00～17：00

開催方法：対面とZoomオンライン配信でのハイブリッド開催

会場：東京農業大学 世田谷キャンパス アカデミアセンター B1 横井講堂

2. ジャーナルインパクトファクターに関するセミナー（9月5日）について

- ・森尾会長より 資料に基づいてJ-stageが主催したジャーナル国際発信力強化についてのセミナー報告があった。

3. 地理関連学会連合運営会議（9月12日）報告

- ・島田副会長より 資料に基づいて地理関連学会連合運営会議の報告があった。

4. 予算執行状況ならびに会員動向について【財務】

- ・矢沢財務担当理事より 2023年度予算の状況について報告があった。原著論文、小特集などでの依頼原稿やシンポジウム論文に対して、著者負担金について編集で案をつくと報告があった。
- ・渡邊財務担当理事より 投稿費だけの話ではなく財務全体の見直しをかけないとならない。個々の費目の予算立て、収入について見直す必要がある。共立との契約についても価格が適正であるのか検討すべきであると指摘があった。

5. 投稿論文審査状況報告【編集】

- ・酒井編集担当理事より 投稿論文の査読審査中の論文についての報告があった。

6. おあしす33-2【総務】

- ・鈴木総務担当理事より おあしすに学術大会の日程など内容、理事会議事録、秋季シンポジウムの日程変更、理事会議事録、学会賞などを記載すると報告があった。

7. その他

- ・真田総務担当理事より 第28回風工学シンポジウム協賛依頼がきている。例年通り協賛すると報告があった。

III. その他

1. CADAL報告(11月24日 乾燥地農学分科会講演会【企画】)

- ・石川理事より 乾燥地農学分科会講演会について報告があった。発表内容は小特集とする。

日本沙漠学会乾燥地農学分科会

日時：2023年11月24日 13：00～17：05

開催方式：ハイブリッド式（対面+Zoom視聴）

開催場所：千葉工業大学津田沼キャンパス6号館614教室

2. 学会賞【学会賞】

- ・的場学会賞担当理事 今のところ推薦がないため積極的な推薦をお願いしたい旨、報告があった。

3. 第36回学術大会およびDT16（2025）について【会長】

- ・森尾会長より 第36回学術大会開催地が決まっていないが、学術大会とDT16を同時開催あるいは連続して開催することで調整していく。開催方法の詳細については次回以降の理事会で検討していく旨説明があった。

4. 第161回理事会開催日

1月6日（土）14：00～@Zoom

日本沙漠学会第161回理事会

日時：2024年1月6日（土）14：00～15：30

会場：Zoom

出席：森尾貴広（会長）、島田沢彦、田中徹（以上、副会長）、高橋新平、渡邊三津子（以上、監事）、矢沢勇樹、渡邊文雄、川端良子、酒井裕司、石川祐一、入江光輝、児玉香奈子、的場泰信、鈴木伸治、真田篤史（以上、理事）、安部征雄、小島紀徳、森卓（以上、顧問）、篠原卓、檜谷昂（以上、総務委員）、田島淳（以上、分科会会長）、

齋藤哲治（事務局）

委任状：豊田裕道

議 題：

I. 報告事項

1. 2023 年度秋季シンポジウム／大会実行委員会

（田島，鈴木，島田）

- ・田島実行委員会委員長から 12 月 9 日（土）に開催された 2023 年度秋季シンポジウム「熱帯沙漠の国ジブチの環境・エネルギー・農牧業の研究最前線」についての開催報告があった。東京農業大学「沙漠に緑を育てる会」および東京農業大学総合研究所研究会沙漠緑化研究部会との共催で、対面参加者が 33 名、オンライン参加者が 27 名（計 60 名）であった。
- ・鈴木実行委員から シンポジウムでの発表内容について、今後査読チームを編成し、レビュー付きの原著論文として沙漠研究に掲載する方向で進めているとの報告があった。
- ・島田実行委員から 昨年度シンポジウムの発表原稿（3 件）も今回の分と併せて掲載する方向で進めたい。

2. 乾燥地農学分科会／石川

- ・石川乾燥地農学分科会会長から 2023 年 11 月 24 日（金）に開催された乾燥地農学分科会講演会「乾燥地農学の原点：日本人の考える沙漠の「ない」を活かすには？」についての開催報告があった。日本海水学会環境・生物資源研究会との共催で、対面参加者が 38 名、オンライン参加者が 8 名（計 46 名）であった。発表内容については、沙漠研究の小特集にする。分科会で査読チームを編成し、レビュー付き論文とする方向で進めている。
- ・石川乾燥地農学分科会会長から 分科会の交付金について、会計報告があった。

3. 財務状況報告／財務

- ・矢沢財務担当理事から 現時点での財務状況について報告があった。

4. 投稿論文審査状況／編集

- ・川端編集担当理事から 投稿論文の査読審査中の論文についての報告があった。

5. 学会賞受付状況／総務・学会賞

- ・真田総務担当理事から 現時点で推薦は 0 件。該当者がいる場合には積極的に推薦をお願いしたい。
- ・森尾会長から DT での発表論文も審査対象。指導教員の方に推薦をお願いしたい。

6. 日本地球惑星科学連合 第 29 回学協会長会議／会長

- ・森尾会長から 資料に基づいて日本地球惑星科学連合第 29 回学協会長会議の報告があった。

7. 総会の定足数に関する細則改定案の取り下げにつ

いて／総務

- ・鈴木総務担当理事から コロナ禍後の学術大会／総会の開催に際し、オンラインでの出欠確認ができるようになったこと、総会をハイブリッドで開催していることを鑑み、前回の理事会（第 160 回、2023 年 11 月 11 日）で提案のあった定足数の改訂について、検討を取りやめることが提案され、承認された。
- 8. 沙漠事典英語バージョン／ワーキンググループ（石川）
 - ・石川企画担当理事から 次回の理事会に向けてワーキンググループで検討を進めていくとの報告があった。
- 9. 沙漠研究の投稿料金の見直しについて（矢沢）
 - ・矢沢財務担当理事から 投稿規定は現状に即した形の文面に今後修正していくとともに、投稿料については編集と財務で現在検討中であるとの報告があった。
 - ・酒井編集担当理事から 他学会誌の状況把握・比較を是非していただきたい。

II. 依頼確認事項

1. 【進捗確認】第 35 回学術大会／大会実行委員長（渡邊）・企画

渡邊大会実行委員長から 以下の報告があった。

- ・大会日時は 2024 年 5 月 11 日（土）-12 日（日）とし、口頭・ポスターともに対面で実施する。
 - 5/11 一般発表，ポスターセッション，総会（ハイブリッド形式），公開シンポジウム，懇親会
 - 5/12 一般発表
- ・公開シンポジウム「世界遺産と持続可能な観光を考える（仮）」を予定している。
- ・発表申込の締め切りは 2024 年 2 月 29 日（木）、要旨の締め切りは 2024 年 3 月 30 日（土）とする。
- ・Google Forms による発表申込ページを作成、学会 HP 上ですでに公開されている。
- ・大会への参加申込についても、総会への出欠確認と併せて Google Forms にて行う。
- ・参加申込の締め切りは 2024 年 4 月 30 日とし、参加費は事前の振り込みを想定、参加費の金額は検討中。
- ・要旨集は電子媒体で配布する。ただし要望があった場合においては冊子体を用意するが費用を徴収する。
- ・鈴木総務担当理事から 上記の報告内容について、次のおあしすに掲載する旨の報告があった。
- ・意見交換の結果、ポスター発表者はショートプレゼンテーションを必須とし、希望者については同一演題での口頭発表も可とする方向で進めることに決まった。ただし、発表件数は 1 件として扱うことと

する。

2. 【依頼・確認】総会資料作成:会計,委員会報告(学会賞),分科会報告

- ・真田総務担当理事から 総会資料作成について依頼があった(締切:3月末)。分科会報告については、風送ダスト分科会を総会資料から削除させていただく。
- ・矢沢財務担当理事から 3月末に会計を締め、4月上旬に会計監査を行うことになる。その点は考慮いただきたい。

3. 【進捗確認】おあしす 33-3 / 総務

- ・鈴木総務担当理事から おあしすの進捗について、表紙はマイヤー清水さんに写真を依頼中。乾燥地農学分科会(11/24開催)と秋季シンポジウム・沙漠工学分科会(12/9開催)の報告を掲載したいので、作成をお願いしたいとの依頼があった。これと第35回学術大会の第2報を併せて掲載するとの報告があった。

III. その他

- ・2024年度以降秋季シンポジウム/企画
石川企画担当理事から 秋季シンポジウムの共催に

ついて、2024年度は九州大学(安福会員・アデル会員)を候補として考えている。2025年度は弘前大(石本会員)、国立民族学博物館(石山俊会員)、秋田大(河井会員、縄田会員、石川会員)を候補として挙げている。

- ・2025年度本大会:筑波大/大会実行委員長(森尾)森尾会長から 2025年度の学術大会は筑波大学で行うことになっているが、DTとの合同開催にするか分離開催とするかで悩んでいる。合同開催はハンドリングが難しい一方で、分離開催とした場合には発表が分散してしまい日本人の発表者が少なくなってしまうことが懸念としてある。合同か分離か、ご意見・ご助言をいただきたい。

- ・意見交換の結果、秋季シンポジウムとDTをセットで開催する方向で検討を行うこととなった。この後、IDCの日本メンバーでDTの開催時期等についてまず打ち合わせを行うこととなった。

- ・次回 第162回理事会・評議員会開催日:

2024年4月13日 理事会 13:00~@ハイブリッド
評議員会 15:00~

学 会 事 務 局

日本沙漠学会事務局は、下記の機関において役割分担しています。用件の内容に応じて担当にご連絡下さい。

【日本沙漠学会事務局】

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F 株式会社共立内
Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 Email : jaals@kyouritsu-online.co.jp

【日本沙漠学会編集事務局】

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F 株式会社共立 三角誠司気付
Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 E-mail : jals.editorial@gmail.com

【日本沙漠学会ホームページアドレス】

<http://www.jaals.net/>

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

新入会員

正会員

池浦 弘 (ID : 1189) 国立研究開発法人国際農林
水産業研究センター

退会会員

正会員

八木 風輝 (ID : 1167)
本間 和宏 (ID : 945) 東京農業大学応用生物科学部

***** 賛助会員・団体会員名簿 *****

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel : 03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060
